

温室効果ガス削減実施状況報告書

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

開発肥料株式会社 竹原工場

(2) 事業所の所在地

開発肥料株式会社 竹原工場

(3) 業種

その他の化学肥料製造業 (1619)

2 計画の期間

本計画の期間は、平成29年度(2017年度)を基準年度とし、平成30年度(2018年度)から令和4年度(2022年度)までの5年間とする。

### 3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況

—《排出量を削減目標とする場合》—

単位：排出量 (t-CO<sub>2</sub>)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度実績排出量 (a)		目標年度 上段：見込量 (b) 下段：削減率 (c)		計画期間の実績 (上段：実排出量 (d)，下段：削減量の対基準年度比 (e))							
	平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成	年度
エネルギー起源CO <sub>2</sub>			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
非エネルギー起源CO <sub>2</sub>			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
メタン			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一酸化二窒素			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他温室効果ガス			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
温室効果ガス実排出量総計			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
温室効果ガスみなし排出量												
実績に対する自己評価												

※ 削減率(c) = ((a)-(b))/(a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a)-(d))/(a) × 100

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標： 生産量 ( t )

温室効果ガスの種類	基準年度の実績 (a)		目標年度 上段：目標 (b) 下段：削減率 (c)		計画期間の実績 (上段：原単位実績 (d)，下段：削減量の対基準年度比 (e))					
	平成29年度		令和 4年度		平成30年度	令和元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	0.5091	0.4836	0.5112	0.5222	0.4883					
		5.0	-0.4	-2.6	4.1	100.0	100.0			
非エネルギー起源CO <sub>2</sub>			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
メタン			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
一酸化二窒素			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
その他温室効果ガス			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
温室効果ガス排出量総計	0.5091	0.4836	0.5112	0.5222	0.4883					
		5.0	-0.4	-2.6	4.1	100.0	100.0			
エネルギー消費原単位(原油換算kl)	195.3	185.5	197.7	212.9	184.9					
		5.0	-1.2	-9.0	5.3	100.0	100.0			
実績に対する自己評価	令和元年度は停電による機器故障・製造中断が多発したこと、並びに焼成炉のタイヤ研磨工事（炉を回転させながらタイヤを研磨）に伴い、18日間焼成炉の空焚きを実施したことで、CO <sub>2</sub> 原単位は基準年度に比べて2.6%増となったが、令和2年度は年間を通じて安定操業が出来たため、CO <sub>2</sub> 原単位は基準年度に比べて年4.1%の削減となった。エネルギー消費原単位（原油換算kl）においても基準年度に比べて5.3%の削減となった。									

※ 削減率(c) = ((a)-(b))/(a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a)-(d))/(a) × 100

#### 4 温室効果ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

##### ○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

項目	削減量等	具体的な取組み
1 燃料使用量の削減		<ul style="list-style-type: none"> <li>・焼成熟風炉の最適空気比の設定。</li> <li>・毎年、焼成炉内部の補修を実施し、燃焼効率を出来る限り維持している。</li> <li>・肥料原料となる多様な石炭灰の特性に合わせた製造(最適焼成温度管理)を実施した。</li> </ul>
2 電気使用量の削減	エネルギー使用量(灯油、軽油、電力)のCO <sub>2</sub> 原単位は基準年度に対し、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度：0.4%増加。</li> <li>・令和元年度：2.6%増加。</li> <li>・令和2年度：4.1%減少。</li> </ul>	<令和2年度の取組み> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制御室、電気室廻りの蛍光灯照明(35台)をLED照明へ更新し電力使用量を削減した。)</li> </ul> <その他取組み> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電力デマンド監視装置を制御室に設置し、電力消費の多い時間帯や運転状況を調査すると共に契約電力も超過しないよう、常時監視している。</li> <li>・昼休憩及び夜間の不要照明消灯。</li> <li>・空調温度の管理 (夏季:室温28℃, 冬季:室温20℃)</li> </ul>

##### ○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み (環境価値の活用等)

	種類	合計量
1		
2		
3		

##### ○ その他の取組み

項目	削減量等	具体的な取組み
1 コピー用紙使用量削減	コピー用紙使用量目標を前年度実績を基に毎年設定し、削減に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両面コピー、再利用紙の使用推進。</li> <li>・使用量集計表を毎月掲示。</li> <li>・環境目標等説明会を開催し、目標を周知。</li> </ul>
2 事務用品グリーン調達 の推進	グリーン調達率 目標75%以上。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グリーン調達率集計表を毎月掲示。</li> <li>・環境目標等説明会を開催し、目標を周知。</li> </ul>

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。